

「令和 2 年度の診療報酬改訂と当部門の活動について」

2020 年 7 月 25 日

精神・心理理学療法部門 運営幹事 細井 匠

【近年のトピックス】

《精神科療養病棟における疾患別リハビリテーションの実施が診療報酬改訂で認可》

現在、わが国の精神科病床には約 26 万人が入院しています。そのうち 65 歳以上の割合は 54.3%に達しており、身体合併症や転倒、廃用症候群など身体面での問題を持つ方が大勢入院されています。当部門では長年、精神科における理学療法の必要性和有効性について、研究発表や研修会を通して発信してきました。

その中の一つとして、精神科における身体面でのリハビリテーションの需要と実施状況を、全国の精神科作業療法士 436 名を対象に調査しました。その結果、96%の方が「精神科において身体面でのリハビリテーションを導入する必要性を感じる」と回答していました。さらに、その理由について尋ねると、「歩行が不安定な方が多いから (82.6%)」、「高齢者が多いから (72.6%)」、「転倒事故が多いから (63.3%)」、「廃用症候群の方が多いため (62.3%)」などの回答が上位に挙げられていました。

また、既に 80.7%の病院では、精神科作業療法に従事する作業療法士が中心となって、身体面への介入を行っていることが分かりました。しかし、大半の精神科病院では疾患別リハビリテーションの施設基準の取得が困難であり、診療報酬を算定できる基準を持っていません。そのため、実施した身体面への介入のうち 45.7%が無償で提供されており、42.0%が精神科作業療法として算定されていました。

このように当部門では、精神科において身体面でのリハビリテーションの必要性が高いにもかかわらず、施設基準の問題で十分には実施できていない現状を明らかにしました。

また、日本理学療法士協会は、精神病棟入院基本料を算定している 316 施設を対象に、「精神疾患患者の地域移行を困難にしている課題」について調査しました。その結果、「早期からの適切な身体機能へのアプローチがなされていない (43.0%)」、「入院中の廃用症候群や拘縮の予防がチームで徹底できていない (39.6%)」、「入院中の転倒・転落事故の予防がチームで徹底できていない (24.7%)」といった回答が得られ、精神疾患患者の地域移行に向けた身体面への介入が不十分であることが示唆されたのです。

これらの結果を基に関連団体が働きかけたことによって、令和 2 年 4 月の診療報酬改訂では、精神科療養病棟における疾患別リハビリテーションの実施が認められました。

精神科療養病棟は全国に約9万床あり、重度かつ慢性的な精神障害によって長期間の療養を必要とする方が入院しています。入院患者の高齢化率は高く、地域移行を推進する為には身体面への介入が必要であり、私たち理学療法士が活躍できる場面も増えるものと思います。

しかし、実際に精神科療養病棟を有する全国の791病院のうち、疾患別リハビリテーションの施設基準を持つ病院は190病院(24%)に過ぎないことが分かっています。せっかく認められても実施できる病院の少ないことは残念に思いますが、今後はより多くの精神科病院が疾患別リハビリテーションの施設基準を取得し、理学療法士の活躍の場が広がることを期待しています。

《精神科病棟における新型コロナウイルス対策 反省と課題》

全く話は変わりますが、2020年5月下旬、私の勤務する病院の精神科閉鎖病棟において新型コロナウイルスの院内感染が発生しました。当院でも例年、積極的に感染予防対策を行っていたのですが、職員から感染を広げてしまいました。

今回の件で、大勢の職員が外部から通う病院という場所は、常に医療従事者自身が感染源となる可能性があることを痛感しました。特に精神科病棟では患者さん自身が病棟内を移動しており、感染の予防に理解が得られない方も一部にいらっしゃいます。そのため、一度患者さんに感染させてしまうと広がりやすく、当院のようにクラスター化しやすいものと考えます。

今後は理学療法士も今まで以上に感染予防対策の徹底が求められます。自分達が感染源となってしまうことのないように、プライベートな時間でも注意をして過ごさなくてはならないと思います。当部門の研修会、研究会の運営においても、感染予防対策に留意した上での開催や、Web配信などの新しい方法を模索しているところです。

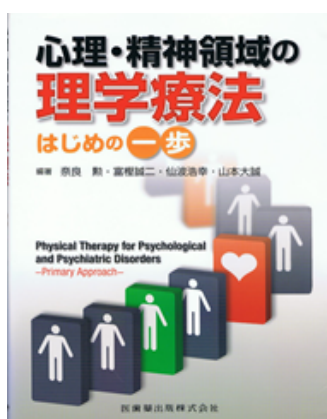
【今後充実を図りたいこと】

精神科病院に常勤で勤務する理学療法士は、協会の0.1%に当たる122名と非常に少ないのが現状です。しかし、今回の診療報酬改訂によって精神疾患患者に関わる理学療法士が少しずつ増え、当部門の学術活動が益々発展することを期待しています。

また、これまで精神疾患患者に接する機会の少なかった理学療法士は、関わり方やリハビリテーションの進行に悩む場合があるかもしれません。このような会員のために当部門では、精神疾患患者の理学療法に関する有用な情報を発信していきたいと考えています。

既に関連書籍が幾つか発刊されていますので、参考になさってください。

以下に3点ほど紹介します。



「心理・精神領域の理学療法 じめの一步」医歯薬出版株式会社，2013



「精神科・身体合併症のリハビリテーション ～総合的な治療計画から実践まで」
協同医書出版社，2015



「精神疾患が合併していても身体的リハビリテーションはできる！」協同医書出版社，2019